

まえがき

令和2年度は小学校の新学習指導要領が全面実施された節目の年度となりました。この学習指導要領改訂の背景には、グローバル化の進展や技術革新、社会構造等の急速な変化による予測困難な時代の到来があります。昨年1月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大は、まさに予測し得なかった事態であると言えるでしょう。

本年1月、中央教育審議会は「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」と題した答申をまとめました。そこには、新学習指導要領の着実な実施により、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要であると示されています。また、2020年代を通じて実現すべき教職員の姿として、「学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たしている」こと等を挙げています。

こうした姿を実現するために、教職員はこれまで以上に自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければなりません。

本県における研修員制度は、昭和50年度に始まり、昨年度までに修了した研修員は延べ569名に上ります。本研修での学びを経験した各教員は、各学校・各地方の中核的な存在として活躍し、本県教育の充実・発展に大きく寄与しています。

本年度の研修員研修においても、本県が策定した「教員としての資質の向上に関する指標」に基づいた修養を土台とし、今日的教育課題の解決を図るべく研究を行い、その成果を広く学校現場に還元することを目的として実施しました。

研修員によるこの1年間にわたる研究と修養の成果の一端を「令和2年度研修員研究集録（第46集）」として作成しました。研究成果については、本年1月31日に開催した令和2年度和歌山県教育センター学びの丘研究報告会において報告したところです。各学校・各地方においては、本研究集録とともに、当センターのウェブページに掲載している資料も併せて、これからの教育実践の参考として活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本年度研修員の研修に際して、御支援・御協力をいただきました学校並びに関係教育機関の方々に、心からお礼を申し上げます。

令和3年3月

和歌山県教育センター学びの丘
所長 西嶋 淳